

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏名	A.I.	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学年	2年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
プログラム名	Summer Language and Culture		
期間	2024年 7月 8日～ 2024年 8月 18日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は、初日に受けたスピーキングテストとライティングテストの結果によってレベル分けされて、1クラス10数名ほどのクラスで行われていました。午前中に100分×2時間のクラスがあり、それぞれのクラスで違う先生が教えてくれました。授業の中では家族、文化、言語など様々なトピックを扱いました。毎回の授業は、一人で何か作業をするというよりはほとんどが生徒同士やクラス内で話し合ったり、ほかの人の意見を聞いたりしながら進めていくタイプだったのでコミュニケーションをとることのできる機会が多かったです。また、文法や発音、イントネーションなどの英語の基礎を学ぶ授業も多く、文法などは英語での説明だったため難しさもあったのですが、それによってこれまで学んできたものとは異なるアプローチから理解することができて新しい発見が多かったのもとても良かったです。ほぼ毎日30分程度の課題が出されていたのですが、その中に授業で学んだ文法の確認問題などもよくあったので、授業中では完全に理解しきれなかった点を復習することもでき、文法に対する理解度が深まりました。また、英語の発音やアクセントについても先生が1人1人の発音を確認して正しい発音ができるようになるまで教えてくださったり、難しい発音の際の舌の動きなどを細かく説明してくださったりして、とてもためになりました。

いちばん印象に残っているのはスピーチの授業で、原稿なしで自分が話したいテーマについてクラスメイト全員の前で3分間ほどのスピーチをするという授業でした。原稿なしでほぼアドリブでスピーチするというので、最初にその課題について聞いた際は英語でできるのだろうかという不安と緊張が大きかったのですが、スピーチする際の間の作り方・落ちのつけ方・話す際のコツなどを授業で学び、練習を繰り返したことで本番は楽しんで話すことができました。この授業を通して、人前で英語を話すことへのハードルが下がり、以前より自分が伝えたいことをすぐ英語に変換できるようになったのもとても学びの多い授業でした。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

6週間の授業を受けて、スピーキングにおける英語の語彙力、文法力が伸びたと実感しました。初めは単語や短い文でしか会話できず、伝えることに必死になっているというレベルの英語力でした。そこで、先生やクラスメイトが普段使っている単語や表現を聞いて自分も真似して使ってみたり、授業で新しく知った単語を普段の生活でも意識したりするようになりました。また、日常会話の中で、時制や話す順番があっているかなど文法的な面を意識するようになったことで、長文で話すこともできるようになっていきました。語彙力が上がり、表現の幅も広がったことで初めのころより自分の伝えたいことを伝えられるようになったと思います。他にも、最初は先生やCAが話しているスピードに慣れなくて聞き取れずに理解できないことが多くありました。しかし、毎日リスニングを続けているうちに耳が慣れてきて、速いスピードでもある程度は理解できるようになり、コミュニケーションもよりスムーズにとれるようになりました。英語以外の面でも、カナダの文化と日本の文化の違いや、他国出身のクラスメイトと自分の国の文化について話す機会が多く、いろんな国について知ることができてとても貴重な経験になりました。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、自分のスピーキングに自信がなく、私にとって英語で話すことはとてもハードルの高いことでした。しかし、英語を話す機会が増えていって、会話を繰り返しているうちにだんだんハードルが下がっていき、異なる国の人たちと会話できることが嬉しくて、英語での会話を楽しめるようになりました。自分の発音や文法が間違っていないか気にするよりも、伝える・コミュニケーションをとることを重視するようになった点が大きな変化につながったと思います。また、日本で英語を勉強しているうちは座学がほとんどだったので飽きたり、どのように勉強すればよいのか悩んだりしていました。この留学を通して初めて、英語がコミュニケーションツールの1つであり、実際に会話する際に使われるという認識が強くなって、もっと学びたいという英語の勉強に対するモチベーションを高めることができました。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

6週間のプログラムを通じて、こんなに日常的に英語を使うことができる環境にいたことができたのはとても貴重な機会で、良い経験だったと強く感じました。日本では絶対に経験できなかったことなので留学に挑戦して良かったと思います。この6週間での学びはとても大きく、英語の能力を伸ばすことができたと思いますが、一方で私にとって6週間はあっという間でまだまだこれから学んでいかなければいけないと自分の不足している点に気付くことができた機会でもあったので、これからもカナダで学んだことを無駄にしないように英語の勉強を続けていこうと思います。この留学での経験を自信につなげて、英語での授業やTOEICなどにも積極的に挑戦し、さらに英語力の向上を目指していきたいです。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏名	S.H.	学部・学科	国際商学部 国際商学科
学年	2年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
プログラム名	SLC 6週間		
期間	2024年 7月 7日～ 2024年 8月 18日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は1コマ110分で一日に2コマ行われた。授業自体は午前のみで午後はアクティビティという流れだった。授業では、基本的にプリントが配られてリスニング、リーディング、ライティングを行い、2コマ目の授業では教科書も用いて演習を行った。しかし全体を通してペアやグループで演習の答え合わせをしたり授業の初めに最近体験した新しいことを話し合ったりとスピーキングをしなければいけない機会が最も多かった。文法や単語に関しては1週間に1度ほどのペースで小テストが行われたが覚える量や難易度はさほど難しくなく、前日に準備をすれば十分に解くことが出来た。最も印象的だった活動は6週間の中で2回行われたプレゼンテーションだった。1回目のプレゼンテーションは2人組を作り、オリジナルのホテルを考えて紹介するというもので、2回目は3人組で1週間程度の旅行プランを考えプレゼンするというものだった。グループでプレゼン資料となるスライドを作ったりどのような内容にするかを話し合ったりする必要があり、授業内でも合計1時間半程度準備する時間が設けられたけれどその他は自分たちで授業時間外に連絡を取り合いながら準備を進めた。発表は自分のクラス内だけではなく、他のクラスの人に対しても行った。ただ大人数の前ではなく3、4人に対する発表を何度か繰り返す形式だったためリラックスして行うことが出来た。プレゼンテーションに限らず、毎週金曜日は他のクラスと交流する時間があった。プレゼンの他に授業で習ったことを紹介しあったり一緒に英語を学べるゲームをしたりした。またもう一つ印象的だったのは、ゲストを招いてお話を聞く授業だった。合計で3人の方に来ていただき、個人個人で考えた質問に答えていただいた。舞台俳優の方や介助犬を育てている方など、普段はあまり聞くことのできない職業の方ばかりでとても刺激的だった。全体的にただ机に向かうだけの授業ではなく楽しみながら学習をすることが出来た。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

授業を通して、まずコミュニケーションとして英語を話さなければいけない状況だったため日常会話の部分で使える表現を知り使うことが出来た。またネイティブスピーカーである先生が発音が間違っていた時にはきちんと指摘をしてくれたため正しい発音を聞いて直すことが出来る環境だったのが良かった。ライティングに関しても間違っている部分に印だけが付いた状態で返され自分で間違いを直す方式だったため、正解が書かれて返されるよりも間違えた理由を自分で考えることができ良かったと思う。また授業の中で新しい単語を学んだ際に同時に似た意味で使われる単語や間違えやすい単語などを教えてくれたり、英語で英単語の意味を調べるという作業をしたりしたことでボキャブラリーの幅が広がると同時に日本語に翻訳するのではなく英語で英語を学んでいく感覚がわかった。そして英語以外の部分に関しても、他国の生徒と話す中で日本と違う文化について知れる機会が多くあった。またリスニングやリーディングの教材はカナダに関係するものが多かった。例えば、カナダの偉人やカナダの観光名所等の教材を扱ったため、カナダについての知識も深めることが出来てよかった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように(気持ちなどが)変化したか。(400字程度)

授業を受ける前は、英語は英単語や文法など暗記することが多い科目のイメージで苦手意識があったけれど、授業を受けるうちに頑張っって短期間に暗記するものではなく、長い期間何度も触れることで自然と覚えて使えるようになっていくものであるということがわかり英語学習を前向きにとらえられるようになった。また、今までは特に文法を間違えることを恐れてたくさん勉強していたけれど、授業や他国の学生との交流を通して文法よりも発音の方が重要なのではないかと感じた。例えば、文法が合っているけど、発音の間違いによって全く違う内容に聞き取られてしまったり逆に理解できなかったりしたことが何度もあったのでより発音を意識した学習をしていきたい。さらに今までは英語を学ぶだけで実際に使う場面はあまりなかったけれど、授業やアクティビティを通して英語を使わないとコミュニケーションが取れない状況を経験したことによって、より英語を学習する意味を実感すると同時に上達したいという気持ちが強くなった。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

今回の留学を通して、英語学習の上でアウトプットをすることの重要性を感じた。せっかく新しい単語やフレーズをインプットしても、いざ自分が使いたいと思ったときにその表現がでてこなかったり、見たことはあるけれどどういう意味だったのか思い出せなかったりということが何度もあった。だから今後の英語学習においては参考書や動画等からのインプットだけで終わらせるのではなく、毎日自分で英文を書いたり話したりするアウトプットの時間を増やしていきたい。また学習するだけではなくオンライン上で海外の人と話したり、日本で海外の人と交流できる場に参加したりと英語でコミュニケーションをとれる場に積極的に参加し、英語を通してもっと自分の視野を広げていきたい。